













スタディツアー 2 班

9月7日 2-B班 浜中町総合文化センター



スタディツアー 2 班

9月7日 2-B班 霧多布湿原センター























「世界津波の日 2019」国連イベント

11月5日 「世界津波の日」 啓発イベント／国連本部（米国 / ニューヨーク市）

「世界津波の日」の11月5日、津波防災への意識向上に向け、国連防災機関（UNDRR）や国連日本政府代表部などの共催による啓発イベントが、国連本部（米国ニューヨーク市）で開催されました。このイベントには、今年9月に北海道で開催した高校生サミットの議長と総合司会のほか、チリの高校生も参加し、高校生たちの決意をとりまとめた「イランカラッテ宣言」を改めて世界に発信しました。

プログラム（現地時間）

10:00-11:30 世代間対話（テーマ：津波への備えと意識の向上）

【パネリスト】 国連事務総長特別代表（防災担当）兼UNDRRヘッド 水鳥 真美 氏
AARP財団 Marc McDonald 氏
高校生サミット2019参加高校生（日本、チリ）

13:15-14:30 パネルディスカッション（テーマ：津波被害の軽減に向けて）

【挨拶】 国連事務総長特別代表（防災担当）兼UNDRRヘッド 水鳥 真美 氏
第74回国連総会議長 Tijani Muhammad-Bande 氏
衆議院議員 福井 照 氏

【パネリスト】 インドネシア国家防災庁 B. Wisnu Widjaja 氏
高校生サミット2019参加高校生（日本、チリ）
パーソンズ美術大学 学部長・教授 Robert Kirkbride 氏

18:30-20:30 レセプション

国連本部



世代間対話



パネルディスカッション



レセプション



■ 記録写真



事前学習ツアー

■ 目的

「世界津波の日」高校生サミット in 北海道に参加する道内の高校生が、平成5年の北海道南西沖地震被害から復興を果たした奥尻町において、防災・減災の取り組みや災害からの復興などについて学ぶ。

■ 参加者

「世界津波の日」高校生サミット in 北海道に参加する道内高校生 53 名
(高校生議長、高校生司会者を含む。)

■ 開催日程

2019年8月6日(火)、7日(水)、8日(木)

■ 記録写真

【交流活動（参加者による自己紹介）】



【津波語りべ隊によるフィールドワーク】





【函館地方気象台職員による防災学習】



【航空自衛隊奥尻分屯基地職員による防災学習】



【英語で行うディスカッションの心構えなどの研修】



【夕食交流会】



【全体写真】



事前学習ツアー アンケート

■ 交流活動（参加者による自己紹介）



せっかく会話を始めるきっかけを掴んでも、英語で答えるにはどうしたら伝わるのかと悩んでしまい、スムーズにいかない点が多々あった。今後はもっと話を広げられるように英語の語彙力をつけてから挑みたい。

(北海道釧路北陽高等学校)



相手と打ち解けられるように質問を自らするようにしたり、笑顔を心がけたりしたいです。また、海外の方達との生活や学校の違いに興味があるので、その事について話ができたらいいなと思っています。また、印象に残るようにユニークな挨拶を考えられればいいなと思います。

(北海道霧多布高等学校)

■ オリエンテーション



サミットで世界の人々と交流し、災害や地震、津波にどう備えていくのか自分も一緒に考え、積極的に意見を出したいと思った。

(北海道釧路明輝高等学校)



他の参加者からとても刺激をうけて、自分をもっと高めたいと思えた。それぞれ皆がどういう思いで参加し、気持ちを持っているのか、理解できてよかった。

(北海道根室高等学校)

■ 奥尻島津波語りべ隊によるフィールドワーク



フィールドワークで実際に奥尻町内を歩いて当時の被害の大きさや復興の難しさなどを目の当たりにして、今後の防災にあり方について考えることができた。

(北海道札幌国際情報高等学校)



フィールドワークの内容を自分達の発表内容にどれだけ盛り込めるかを改めて練り直し、津波語り部隊の話を世界へ発信していく。

(市立札幌開成中等教育学校)



普段何気なく見ている海が突如牙をむいたり、大切な人を失った悲しみが自分事ではないと心のどこかで感じている自分がいて、これでは被災者の気持ちにそって支援などできないと痛感した。

(北海道登別明日中等教育学校)

■ 函館地方気象台職員による防災学習



いままで地震がおこる前の対策ばかりを考え、調べていたのでより広い範囲で災害について考えることができました。地震の予測や対策などは過去の観測データをもとに行っているので世界で協力していく必要があると感じました。
(北海道札幌西高等学校)



災害に関する正しい情報を知るだけでなく発信をすることを意識する。自分を含め、知らない人が多いであろうから。
(札幌新陽高等学校)

■ 航空自衛隊奥尻島分屯基地隊員による防災学習



いつかボランティア活動に参加し、復興のお手伝いをしたいので、もう少し活動内容を勉強してみようと思います。
(北海道江差高等学校)



避難時だけでなく、避難した後のことも同じくらい重要で、そのためには普段から備蓄などの準備を進めていく必要がかなりあると感じた。このことを津波の危険性とともに入れていく。
(北海道浦河高等学校)

■ 英語で行うディスカッションの心構えなどの研修



今回足りないと分かったところを勉強して、十分な心構えを身に付けていきたい。また、本番において分かりやすく具体的な意見を伝えられるようにしたい。
(北海道奥尻高等学校)



英語でプレゼンを行う際は、英語を速く、きれいに読もうとするのではなく、相手が聞き取りやすい、かつ理解しやすいように話すことが大切だと分かった。
(函館ラ・サール高等学校)

■ 夕食交流会



サミットでは外国からも高校生が参加するので国内外を問わず交流に積極的に取り組みたいと思います。

(北海道函館水産高等学校)

■ 事前学習ツアー全般について



奥尻で起きた南西沖地震については、事前によく学習していたが、やはり現地での災害の跡や資料館を見たことで、インターネットや本などの情報では学べないものを得ることができ、より多くのものを学べたと感じた。特に実際に当時被害に遭った方々のお話は大変貴重で、一番辛い気持ちになった。更に、この事をより多くの人に後世に伝えていくことが重要だと思った。

(札幌日本大学高等学校)

■ サミットへの参加に向けた準備



奥尻町の北海道南西沖地震体験者からの話を「生の声」として世界に伝えることができるように、サミットでの発表内容を工夫したい。

(北海道札幌南高等学校)



英語学習やディスカッションを通して、自分にはまだ会話における表現力が特に足りていないと感じました。意見を発信したり、他人の考えを理解することにも絶対必要な能力なので、サミット当日まで他の参加メンバーとディスカッションのシミュレーションと練習をします。

(北海道滝川高等学校)

高校生サミット 参加者アンケート

■ 概要

「世界津波の日」2019高校生サミット in 北海道は、地震や津波などの災害から国民の生命、身体、財産の保護、国民生活及び国民経済に及ぼす影響を最小化できる国土強靱化を担う将来のリーダーの育成と、世界各国の「きずな」を一層深めることを目的として開催し、サミットに参加した日本を含む44か国の生徒・引率506名（生徒394名、引率112名）に事後アンケートを行い、その結果を取りまとめました。アンケートでは、「防災・減災の重要性をより強く感じるようになった」、「他の国・学校の生徒との交流は有益だった」、「もっと防災について学ぼうと思う」、「このような国際交流の場があれば、積極的に参加したい」などの項目に多くの回答が寄せられ、本サミットの開催より、今後の防災活動に主体的に取り組む姿勢に期待できる結果となっています。

■ 取りまとめ

		国内参加者		海外参加者		合計				
		生徒	引率者	生徒	引率者	生徒	引率者	計		
1	【サミット】最も有益であった活動は何ですか。3つ選んでください。									
	a 発表のための事前学習	62	30	92	21	154	51	205	40.9%	
	b 分科会で発表したこと	73	43	33	6	106	49	155	30.9%	
	c 分科会で他校の発表を聞いたこと	70	24	90	28	160	52	212	42.3%	
	d 分科会でディスカッションしたこと	111	44	113	15	224	59	283	56.5%	
	e 様々な国と交流できたこと	150	53	152	31	302	84	386	77.0%	
	f 総会	28	8	45	8	73	16	89	17.8%	
	g 高校生サミットとして世界に向けて宣言をしたこと	25	3	47	5	72	8	80	16.0%	
	無回答	0	0	0	2	0	2	2	0.4%	
	2	事前学習を通して、自分の住んでいる地域の被害想定やその防災対策について知識は深まりましたか？								
	a 非常に深まった	121	25	189	33	310	58	368	73.5%	
	b ある程度深まった	53	42	16	3	69	45	114	22.8%	
	c あまり深まらなかった	4	1	2	0	6	1	7	1.4%	
	d 全く深まらなかった	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
	無回答	1	0	5	6	6	6	12	2.4%	
	3	他国の災害やその防災について知識は深まりましたか？								
	a 非常に深まった	94	22	179	32	273	54	327	65.3%	
	b ある程度深まった	79	40	29	2	108	42	150	29.9%	
	c あまり深まらなかった	5	5	3	1	8	6	14	2.8%	
d 全く深まらなかった	0	0	0	0	0	0	0	0.0%		
無回答	1	1	1	7	2	8	10	2.0%		
4	他の学校の発表やアクションプランから新たな発見や気づきがありましたか？									
a 大いにあった	94	37	187	32	281	69	350	69.9%		
b ある程度あった	76	24	22	3	98	27	125	25.0%		
c あまりなかった	7	6	2	0	9	6	15	3.0%		
d 全くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0.0%		
無回答	2	1	1	7	3	8	11	2.2%		
5	防災・減災の重要性をより強く感じるようになりましたか？									
a とてもなった	151	34	193	34	344	68	412	82.2%		
b ある程度なった	27	31	18	1	45	32	77	15.4%		
c あまりならなかった	0	2	0	0	0	2	2	0.4%		
d 全くならなかった	0	0	0	0	0	0	0	0.0%		
無回答	1	1	1	7	2	8	10	2.0%		
6	他の国・学校の生徒との交流は、有益なものとなったと思いますか？									
a とてもなった	157	64	210	34	367	98	465	92.8%		
b ある程度なった	20	3	1	2	21	5	26	5.2%		
c あまりならなかった	1	0	1	0	2	0	2	0.4%		
d 全くならなかった	0	0	0	0	0	0	0	0.0%		
無回答	1	1	0	6	1	7	8	1.6%		
7	動画などによる事前交流は、有益なものとなったと思いますか？									
a 強く思う	56	15	147	31	203	46	249	49.7%		
b ある程度思う	81	32	49	4	130	36	166	33.1%		
c あまり思わない	33	21	8	0	41	21	62	12.4%		
d 全く思わない	8	0	0	0	8	0	8	1.6%		
無回答	1	0	8	7	9	7	16	3.2%		
8	出会った他の学校の生徒（関係者）と、メールアドレスや連絡先の交換はしましたか？									
a 10人以上	77	6	119	24	196	30	226	45.1%		
b 7人以上	31	6	50	7	81	13	94	18.8%		
c 3人以上	47	32	34	7	81	39	120	24.0%		
d 全くしなかった	24	24	8	1	32	25	57	11.4%		
無回答	0	0	1	3	1	3	4	0.8%		

		国内参加者		海外参加者		合計					
		生徒	引率者	生徒	引率者	生徒	引率者	計			
2 サミット 後の 活動 につ いて	1	もっと防災について学ぼうと思いますか？									
		a 強く思う	123	47	188	36	311	83	394	78.6%	
		b ある程度思う	51	20	14	4	65	24	89	17.8%	
		c あまり思わない	2	0	1	1	3	1	4	0.8%	
		d 全く思わない	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
		無回答	3	1	9	1	12	2	14	2.8%	
		2	あなた自身の家の備えや避難経路を見直そうと思いますか？								
		a 強く思う	109	37	143	31	252	68	320	63.9%	
		b ある程度思う	61	29	46	7	107	36	143	28.5%	
		c あまり思わない	6	1	11	2	17	3	20	4.0%	
		d 全く思わない	0	0	2	0	2	0	2	0.4%	
		無回答	3	1	10	2	13	3	16	3.2%	
		3	あなたの住んでいる地域や学校で、避難訓練がある場合は積極的に参加しようと思いますか？ また、ない場合は避難訓練の実施を呼びかけようと思いますか？								
		a 強く思う	99	30	124	29	223	59	282	56.3%	
		b ある程度思う	72	35	49	7	121	42	163	32.5%	
		c あまり思わない	5	1	18	1	23	2	25	5.0%	
		d 全く思わない	0	0	7	2	7	2	9	1.8%	
		無回答	3	2	14	3	17	5	22	4.4%	
		4	地域の防災能力を高めるために、地域と連携した取り組みを進めようと思いますか？								
	a 強く思う	106	33	177	36	283	69	352	70.3%		
	b ある程度思う	59	32	22	4	81	36	117	23.4%		
	c あまり思わない	11	1	3	1	14	2	16	3.2%		
	d 全く思わない	0	0	0	0	0	0	0	0.0%		
	無回答	3	2	10	1	13	3	16	3.2%		
	5	被災地の復興活動に参加しようと思いますか？									
	a 強く思う	110	24	171	40	281	64	345	68.9%		
	b ある程度思う	58	39	28	1	86	40	126	25.1%		
	c あまり思わない	7	4	3	0	10	4	14	2.8%		
	d 全く思わない	0	0	1	0	1	0	1	0.2%		
	無回答	4	1	9	1	13	2	15	3.0%		
	6	発表したアクションプランは実施できそうですか？									
	a 3か月以内に実施	43	5	60	19	103	24	127	25.3%		
	b 半年以内に実施	50	18	60	9	110	27	137	27.3%		
	c 1年以内に実施	43	21	50	4	93	25	118	23.6%		
	d 来年以降	39	22	29	6	68	28	96	19.2%		
	無回答	4	2	13	4	17	6	23	4.6%		
	7	今回参加した国や学校と協力して、防災に関する活動をしたいと思いますか？									
	a 強く思う	111	29	190	38	301	67	368	73.5%		
	b ある程度思う	58	35	9	2	67	37	104	20.8%		
	c あまり思わない	7	3	2	1	9	4	13	2.6%		
	d 全く思わない	0	0	1	0	1	0	1	0.2%		
	無回答	3	1	10	1	13	2	15	3.0%		
	8	学校に帰ってから、「世界津波の日」2019高校生サミットin北海道の参加報告・発表を行いますか？									
	a 既に予定している	93	42	143	33	236	75	311	62.1%		
	b 予定はないが必ず行う	12	5	39	6	51	11	62	12.4%		
	c できればやりたい	45	14	21	1	66	15	81	16.2%		
	d 行わない	25	6	0	0	25	6	31	6.2%		
	無回答	4	1	9	2	13	3	16	3.2%		
	9	これからも、このような国際交流の場があれば、積極的に参加したいと思いますか？									
	a 強く思う	156	50	197	40	353	90	443	88.4%		
	b ある程度思う	20	16	4	1	24	17	41	8.2%		
	c あまり思わない	1	0	1	0	2	0	2	0.4%		
	d 全く思わない	0	0	0	0	0	0	0	0.0%		
	無回答	2	2	10	1	12	3	15	3.0%		

■ サミット参加者からの感想・意見

多くのご感想、ご意見の一部を本レポートに掲載させていただきました。皆様のご協力に感謝いたします。



いろいろありがとうございました。災害について学ぶことができよかったです。
(ブラジル)



地元の学校の生徒たちが自分たちの活動を紹介する機会があり、すばしかったです。おかげで私の生徒たちは、自国に持ち帰るべき多くのアイデアを得られました。
(チリ：引率者)



自然災害に関する深い知識と、私たちがそれにどのように備えられるかについて学び、また、文化交流し、新しい人々に出会うというすばらしい経験ができました。
(クック諸島)



素晴らしいイベントでした。
(フランス：引率者)



しっかりと運営された研修ツアーでした！私は教師ですが、たくさんのことを学び、楽しかったです！ありがとうございました！約3週間後に自国で結果を発表します！
(ドイツ：引率者)



私は、初めてこのプログラムに参加しましたが、津波や地震という最悪の事態に備えるために、私たちの国の学校、コミュニティ、そして人々は何をすべきか、自然災害に直面したときに、誰も亡くならず、みんなが助かる方法を学びました。
(キリバス：引率者)



日本での日々は…私の人生の中で最高の日々でした！！もう一度繰り返しますが、最高の日々でした！！…私は多くのことを学び、多くの美しい景色、場所を見て、他国の新しい友達ができました。
(マーシャル諸島)



すばらしい経験になりました。私は今、日本が大好きだと言いたいです。どうもありがとうございます！
(メキシコ)



サミットでグループ活動に参加するのは楽しかったです。また参加する機会をいただけたら、全力を尽くしたいです。日本を恋しく思うでしょう。
(ナウル)



私の生徒たちは間違いなく多くのことを学びました。生徒たちは頻繁に驚いた様子を見せ、また、夕方には学んだことのすべてを私に話してくれました。
(オランダ：引率者)



すべての国のみんなと話すことができたので、ディナーパーティーが一番良かったです。席が指定されていたので大変でした。席が指定されていなかったら、もっといろいろな国の人と交流できたと思います。
(ニュージーランド)



世界のいろいろな国の人と友達になれました。このような機会を与えてくれた皆さんに感謝します。
(ロシア連邦)



このプログラムは非常によく計画されており、スタッフの方々は参加者の過ごしやすさと要望に配慮してくれました。スタッフ、職員、日本人生徒からの心からの歓迎を見るのは非常に心温まるものでした。スポーツセンターの入口の雪だるまは、特別な思い出になりました。綿密な計画を立て、安全に配慮してくれたことに感謝します。
(シンガポール：引率者)



私はこのサミットのプログラムを本当に楽しみました。このプログラムを組織し、私の国にこのサミットへの参加を求め、私に参加の機会を下さった日本の政府に本当に感謝します。
(ソロモン諸島)



このサミットは、私たちのような国にとって非常に重要です。私たちの国は、2004年に津波の被害にあい、常に洪水に苦しめられています。私たちは自国で環境対策と防災活動をしなければなりません。私たちにとってとても貴重な研修でした。
(スリランカ：引率者)



サミットはとても良かったです。私の生徒たちは数々の活動を通して多くを学びました。彼らにとって良い経験です。
(タイ：引率者)



プログラムの内容が大変良かったです。この経験をとおして災害に関する知識を増やすことができました。
(トルコ)



日本人たちは、たとえ私たちよりも年上であっても、また、英語がよくわからなくても、何とか助けようとベストを尽くしてくれて、とても親切でした。
(ツバル)



とても楽しかったし、たくさんの新しい友達に出会いました。多くの「若き津波防災大使」が自然災害について話し合うのを見るのはすばらしいことでした。
(バヌアツ)



生徒はこの機を捉え、短時間でしたが調べものをして、調べたことをまとめ、発表の準備を行うなど、知見を広め、問題解決のための学習をすることができました。参加した生徒は、他の発表者の発表を聞いて自分に足りないものを強く感じ、現在も授業で意識して取り組んでいます。私も、世界情勢に対する関心、英語・日本語による文書構成力、発表など、指導者としては、生徒にどのような力をつけるべきかを考えることができ大変有益でした。参加させていただきありがとうございます。

(北海道：引率者)



とてもいい経験をありがとうございました。個人の防災意識も高まったし、地域のつながりが大切だということに気づきました。普段聞くことのできない人からの話を聞くことができよい思い出になりました。交流の時間がもう少し欲しかったです。

(北海道)



国内だけでなく海外の人と話し合うことで、自分の中で新たな気づきがあり、楽しかったです。ディスカッションでは自分の英語力だけでなく知識量の不足も感じたので、今後に向けて改善していきたいです。このサミットに参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。

(北海道)



分科会でのディスカッションはもちろん、様々な交流を通して自らの英語能力を高めることにつながったと共に、総会での報告を通じ、私たち高校生にでも動かせる世界があることを実感し、今後も活動を展開したいと強く感じた。

(北海道)



多くの方々がこのイベントに関わっていると随所に感じる大きなイベントでした。また、他国の生徒とコミュニケーションをとる（あるいはとりたいけれどとれなかった）という経験は、英語学習へのモチベーションを高める最も効果的な方法であると改めて感じました。(岩手県：引率者)



行く前は不安でいっぱいだったが、出会った高校生みんなが優しく、英語も上手だったのでいい刺激を受けた。サミットを通して、防災・英語力向上の両方に対して意識が高まった。

(岩手県)



他国の生徒と交流できてとても良い経験になりました。今後はもっと英語力を高めて、一歩踏み込んだところまで英語でコミュニケーションができるようになりたいと思います。
(岩手県)



本校では防災に関する研究活動が軸の学校設定科目（地域社会研究）を1年次に実施しているが、そこで生徒たちが導いた結論と、今回のディスカッションを経て導かれた結論がほぼ一致しており、本校での研究活動がワールドスタンダードのものであるという自信を持つことができるきっかけとなったと同時に、生徒たちの誇りとなるいい機会だったと思う。
(宮城県：引率者)



このような国際的な場で発表し、ディスカッションする機会はなかなかないのでとても貴重な経験になった。英語を聞き取る・話せるはもちろん、拙い英語でも相手に聞いてもらえるような内容・考えを発表できるようにしたいと思った。防災についてはその特色を生かしたアクションプランなどもあり地域性が大切ではないかと感じた。今回のイベントをきっかけに、防災・グローバルな視点とともにその意識を強めていきたい。
(宮城県)



非常に充実した時間でした。東日本大震災経験者として、各国の高校生と意見交換を行えたことは、必ず将来の糧になると思っています。言語・文化・歴史・国境を越えてできたこの出会いの数々を今後大切にしていきたい。このような貴重な機会をいただいたことに感謝しています。
(宮城県)



このサミットに参加して、防災や減災に対する知識や国ごとの危機感に差を感じました。また、英語でのコミュニケーションは難しかったけれど、たくさんの国の人達との交流ができたので、とても良い経験になりました。
(群馬県)



今回の津波サミットを通して様々な国と地域の高校生と防災について話し合ったり、交流することができた。特に他国の防災意識や避難訓練、防災教育などについての話を同世代の人から聞くことができたことはとても貴重な体験だった。日本の防災が進んでいることを実感できたが、「ぼうさい」を浸透させる工夫が他国には伝わっていないこと、日本国内でも伝わりきっていないことが分かった。まずは分科会でプレゼンしたアクションプランを実現するところから、防災に関わってみたいと強く思った。
(東京都)



少人数のアイデアではやはり限度があるので、いろんな国の人の考えを知ることができてよかった。また、ディスカッションでさらに考えを深めることができた。今回だけでこのつながりが切れてしまうのはもったいないので、このつながりを切らさないようにする取り組みをしたい。

(山梨県)



想像以上に中身のあるもので、自身のこと、津波のことだけでなく他国と話し合うことで、様々な文化の観点で話すことができ、とても勉強になりました。得たものの多いサミットで、ぜひ次回も参加したいと思いました。

(静岡県)



若い世代は、サミット終了後も SNS 等を通して地域や時間の垣根を越えてつながることができる。このような交流や意見交換を広げていくことは非常に有効であると思うし、一人でも多くの命が救えるような取り組みが、それぞれの地域で広がりを見せてくれるように、教員としても積極的に働きかけをしていきたい。

(和歌山県：引率者)



サミットに参加して、英語の聞き取りが難しく、思い通りに話せなかったので、もっと勉強しようと思った。海外の生徒よりも、日本人生徒で非常に流暢な英語で発言していた人たちに圧倒された。自分が伝えたかったことを多くの人たちに発信することができたのが嬉しかった。今回の経験は英語だけではなく、防災に関しての勉強も深めたいというきっかけになった。

(和歌山県)



世界各国の高校生と防災について意見を交換して楽しかった。津波への意識もとても高まりました。英語でディスカッションしたことはとても良い経験になりました。海外の人たちの英語力、発信力には驚かされました。津波に対しての考えをみんな沢山持っていて、津波への対策として「自分でできることも沢山あるんだな」と思いました。みんなでのレセプションは、友だちを作る良い機会となったし、これからも関係を続けていけるようにしたいなと思いました。たくさんの人に出会えて良かったです。

(和歌山県)



高校生が中心となって考える国際会議に参加することができてとても嬉しかった。防災意識が高まり、他の地方、国の減災方法も知ることができた。今回学んだことを学校や私の住む地域へ情報発信も行いたいと思った。

(奈良県)



プレゼンテーションやディベートでは自分の課題点や自信を得ることができた。海外の生徒のふれ合いはとても楽しく、会場の雰囲気もとても良かった。とても楽しいサミットになりました。ありがとうございました。

(京都府)



世界の高校生と防災活動発表を通して、仲良くなれたことは、大変貴重な体験になりました。初めての世界規模の大会で、英語が苦手な自分が交流することは大変でしたが、何とか意思疎通が出来て理解しあえた時は、大変うれしく思いました。自分たちの学校での防災の取り組みをもっと理解してもらえるように、英語力もさらに伸ばしたいと思いました。

(高知県)



他の高校の意識をもったたくさんの高校生と交流できたことがとても刺激になった。私は参加者同士のつながりを作ることができ、ディスカッションや話す機会があれば、私も呼んでほしいと伝えることができた。このような日本代表として、世界に自分の意見を発表、プレゼンできる機会をもっと政府が増やして下さいとうれしいです。

(福岡県)



6人グループでディスカッションするときに、積極的に意見を言えたり、昼食、夕食の時にも海外の高校生との交流ができました。自分自身の視野を広げられる貴重な経験の場を設けていただいたことにとっても感謝しています。ありがとうございました。機会があれば、来年もぜひ参加したいです。

(熊本県)

「世界津波の日」2019高校生サミット in 北海道 報告書

2020年1月発行

編著・発行 世界津波の日高校生サミット実行委員会
〒060-8588 北海道札幌市中央区北3条西6丁目

無断複製、転載を禁じます。



Organizers Hokkaido Government, Hokkaido Board of Education

Co-organizer United Nations Office for Disaster Risk Reduction (UNDRR) Office in Japan

Supporting Organizations National Resilience Promotion Headquarters / Director General for Disaster Management, Cabinet Office of Japan / Ministry of Foreign Affairs of Japan / Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology – Japan / Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism of Japan / Japan Meteorological Agency / Organization for Economic Cooperation and Development (OECD) / Economic Research Institute for ASEAN and East Asia (ERIA)

主催 北海道、北海道教育委員会

共催 国連防災機関 (UNDRR) 駐日事務所

後援 国土強靱化推進本部、内閣府政策統括官 (防災担当)、外務省、文部科学省、国土交通省、気象庁
経済協力開発機構 (OECD)、東アジア・アセアン経済研究センター (ERIA)